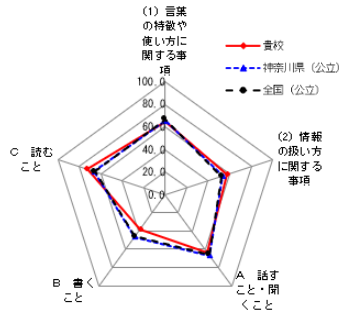
令和8年度全国学力・学習状況調査結果

横浜市立上白根小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。
毎年、全国の6年生が行っているものです。結果を分析し、今後の指導の改善に努めてまいります。

国語

学習指導要領の領域の平均正答率の状況

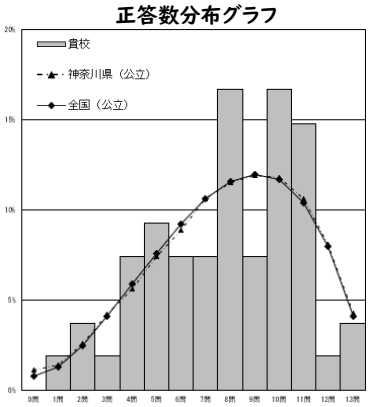


・本校の6年生は、読解力が高く、上位層が充実しているという強みをもつ反面、表現力に課題があり、学力の二極化が見られます。

◎強み

・領域別では、「C 読むこと」が、全国平均を上回っています。文章から情報を正確に読み解く力が育っています。
・「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国平均と同等であり、漢字や語彙、言葉のきまりと言った言語事項の基礎が定着しています。
・正答率分布グラフにおいて、8問正答および10問正答の割合が、全国平均の山を大きく超えています。学力の高い児童が一定数いて、授業内のペアワークやグループ学習をリードできるポテンシャルをもっています。

正答数分布グラフ

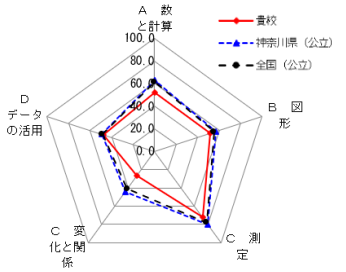


□今後の指導について

・授業内で、ペアを活用した伝え合いの時間を多く設定し、表現力を身につける。
・自分に合った課題を児童が選択して学ぶことで、一人ひとりの学力を引き上げる。

算数

学習指導要領の領域の平均正答率の状況

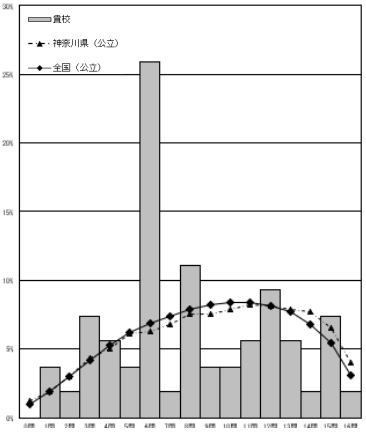


・本校の6年生は、図形やデータの領域に強みがある一方で、計算や割合の領域にへこみが見られます。

◎強み

・領域別で見てみると、「C 測定」および「D データの活用」の領域では、全国平均と同等の正答率が見られます。図形の計量や、表・グラフから正しく情報を読み取る力が育っています。
・正答率分布グラフにおいて、「6問正答」の児童が約26%と突出しており、基礎的な問題を解く力をもった児童がクラスの大半を占めています。

正答数分布グラフ



□今後の指導について

・朝学習の時間を活用して、数・計算の土台をかため、定着を図る。
・国語と同様、レベル別の課題等を児童が選択して学ぶことで、一人ひとの学力を引き上げる。